

## 調查分析 I (全般的分析)

## 調査分析 I（全般的分析）

委員長 竹田一雄

### 1. 今回の調査は、どのような人たちに行ったのか

今回の調査対象者の属性を、調査結果に従って示す。

- ◇有効回答者数 802 名
- ◇回答者年齢は、21歳をピークとする18歳から22歳 ・女性57%、男性43%
- ◇在学者76%、うち大学生80%、専門学校生11%、短大高専生5%
- ◇非在学者24%、うち正社員42%、パートアルバイト38%、非就業12%、派遣契約社員8%
- ◇家族との同居状況 親84%、兄弟姉妹59%、祖父祖母18%、配偶者2%、子供2%、
- ◇同居者なし13%
- ◇調査対象地域 全国42都道府県
- ◇うち首都圏（東京・神奈川・埼玉・千葉）41%、その他地域59%

Q35 年齢	802	802
18歳	78	10%
19歳	169	21%
20歳	179	22%
21歳	199	25%
22歳	175	22%
不明	2	0%

Q35 性別	802	802
男性	347	43%
女性	454	57%
不明	1	0%

Q35 都道府県	802	802						
北海道	42	5%	石川県	4	0%	岡山県	9	1%
青森県	4	0%	福井県	4	0%	広島県	10	1%
岩手県	2	0%	山梨県	5	1%	山口県	1	0%
宮城県	6	1%	長野県	2	0%	徳島県	2	0%
秋田県	1	0%	岐阜県	17	2%	香川県	-	-
山形県	-	-	静岡県	16	2%	愛媛県	-	-
福島県	3	0%	愛知県	65	8%	高知県	3	0%
茨城県	12	1%	三重県	14	2%	福岡県	16	2%
栃木県	10	1%	滋賀県	12	1%	佐賀県	1	0%
群馬県	12	1%	京都府	26	3%	長崎県	4	0%
首都圏 埼玉県	66	8%	大阪府	69	9%	熊本県	6	1%
首都圏 千葉県	57	7%	兵庫県	48	6%	大分県	2	0%
首都圏 東京都	139	17%	奈良県	18	2%	宮崎県	-	-
首都圏 神奈川県	73	9%	和歌山県	4	0%	鹿児島県	1	0%
新潟県	7	1%	鳥取県	3	0%	沖縄県	3	0%
富山県	-	-	島根県	3	0%			

<b>Q31 あなたは現在、学校に在学していますか。</b>	<b>802</b>	<b>802</b>
在学している	606	76%
在学していない	196	24%
<b>Q31.1 現在、在学している学校は次のうちどれですか。</b>	<b>606</b>	<b>606</b>
大学	486	80%
専門学校(職業訓練校を含む)	69	11%
短期大学・高専	32	5%
大学院	3	0%
その他	16	3%
<b>Q24 現在、あなたが同居されているご家族はいらっしゃいますか。</b>	<b>802</b>	<b>802</b>
親(父、母)	672	84%
兄弟姉妹	476	59%
祖父、祖母	143	18%
同居人はいない	108	13%
配偶者(夫、妻)	20	2%
子ども	19	2%
その他	3	0%
不明	1	0%
<b>Q24 子どもの数(平均値)</b>	<b>19</b>	
平均(人)	平均	1.6
回答数	全体	802
1人	1人	12
2人	2人	5
3人	3人	1
4人	4人	-
5人以上	5人以上	1
不明	不明	783

<b>Q32 あなたは学校を卒業(中退)</b>	<b>196</b>	<b>196</b>
はい	120	61%
いいえ	76	39%
<b>Q33 あなたは学校を卒業(中退)してから、どのように働いていましたか。</b>	<b>196</b>	<b>196</b>
主に正社員として	82	42%
主にパート・アルバイトとして	74	38%
仕事をしたことがない	23	12%
主に派遣社員・契約社員として	16	8%
不明	1	1%
<b>Q34 あなたは学校を卒業(中退)してから、今までに何回職業を変えましたか。</b>	<b>173</b>	<b>173</b>
転職したことはない	102	59%
1回	31	18%
2回	21	12%
3回以上	19	11%

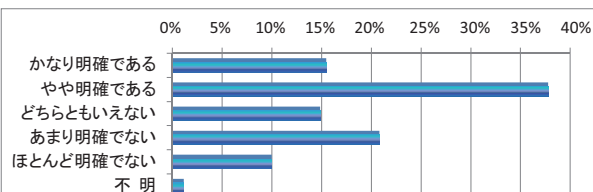
## 2. 回答者たちの仕事選択に関する評価の信頼度

今回の調査では、調査対象者が介護を職業としてどう評価しているかを聞いている。回答の信頼度判断のため、回答者がどの程度自らの目標ややりたいことを明確に持っているかを次の質問で確認した。

(Q22) あなたは、将来の目標や自分のやりたいことが、どの程度明確ですか？

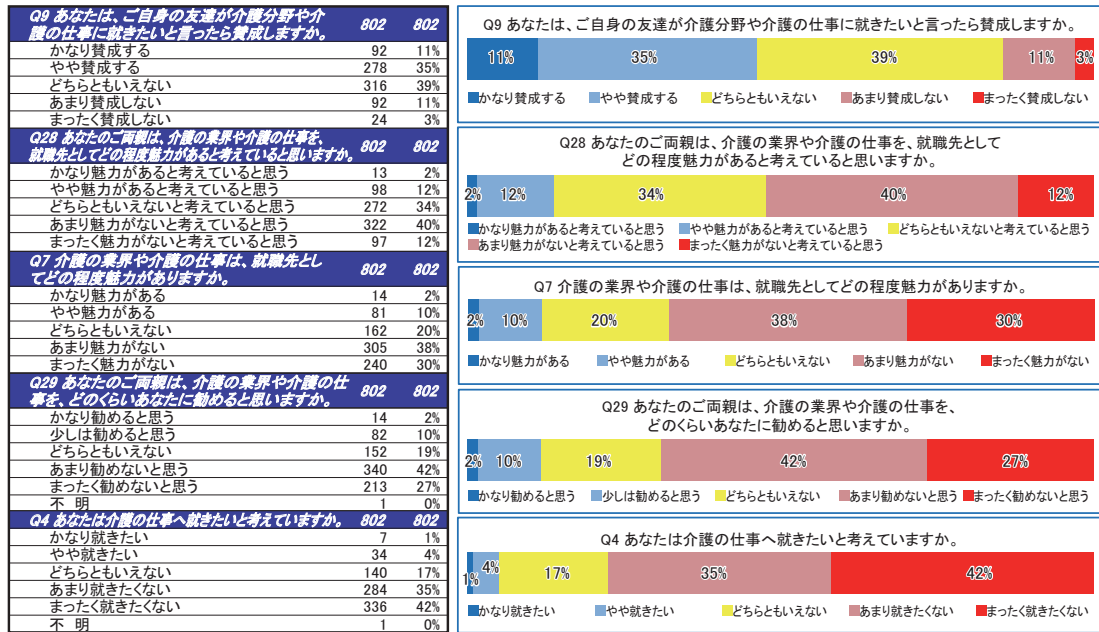
将来の目標や自分のやりたいことについて「かなり明確 15%」「やや明確 38%」で合わせて53%と半数を超えていることが確認された。以降の調査結果は、回答者の過半数が自分なりの職業に対する考えを持ったうえでの回答であることが確認でき、結果に信頼がおけると判定した。

<b>Q22 あなたは、将来の目標や自分のやりたいことが、どの程度明確ですか。</b>	<b>802</b>	<b>802</b>
かなり明確である	124	15%
やや明確である	303	38%
どちらともいえない	119	15%
あまり明確でない	167	21%
ほとんど明確でない	80	10%
不明	9	1%



### 3. 今、若者たちは介護で働くことを希望するか

今回調査の全国の20歳前後の若者たち802名が、「介護職場に友人が勤めたいと言ったらどうか(Q9)」、「自分の親たちはどうとらえるか(Q28・Q29)」、「自分自身では就労を望むか(Q7・Q4)」という形で、順次掘り下げて整理した結果を示す。



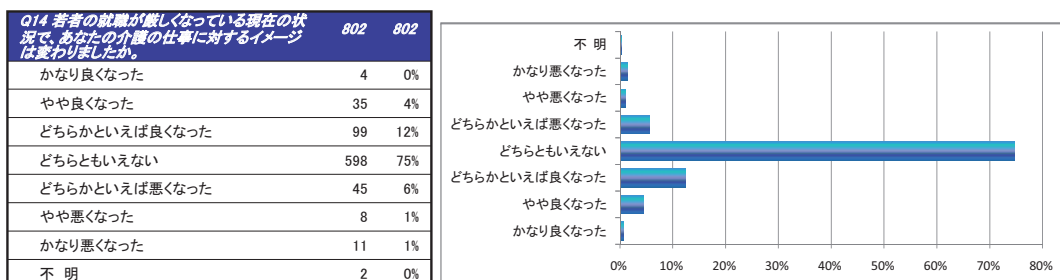
グラフから分かるように、それぞれの質問に否定的な回答者の割合は

- 友人が就きたいと言ったら (否 14%) < 親が魅力に感じているか (否 52%)
- < 就職先として魅力があるか (否 68%) < 両親は勧めるか (否 69%)
- < 仕事に就きたいか (否 77%)

となり、自らの仕事としてより具体的になればなるほど、はっきり否定されていくことが分かる。とりわけ、近年「本人が介護の仕事に就こうと思っても、親が反対する」という言葉を聞くが、約7割の若者は、自分の親は介護就労に賛成しないと受け止めていることが分かる。

### 4. 最近の不況や処遇改善施策で介護の仕事の評価は上がったか

近年の不況によって他の就職先が減少するとともに、介護人材処遇改善の施策の効果も期待されるが、残念ながらそれでも期待に反して介護の仕事に関わるイメージは全体としてはわずかしこ好転していない。ただし、この結果は介護就業を望むグループとそうでないグループで異なるため、その分析は後段の詳細分析編を参照願いたい。



## 5. 若者たちは何が良くなれば介護の仕事に就きたいと考えるか

若者たちが、これが改善されれば介護で働いても良いと考えている項目である。

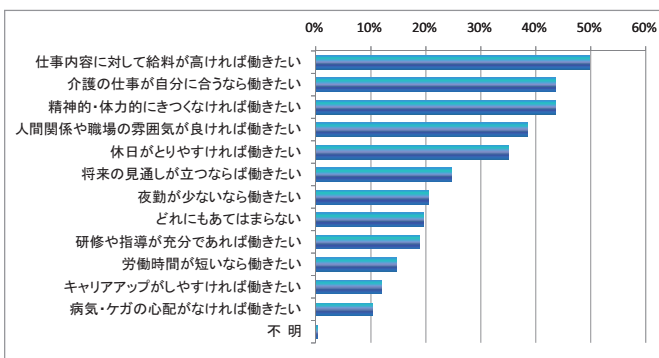
50%の若者は、給与の改善をあげているが、それ以外の労働条件（精神的体力的なきつさの改善、休日の取りやすさ、夜勤が少ない）が指摘されていることを見落とせない。

現在、国レベルで介護従事者を増やすための主たる施策として、「研修指導の充実」や「キャリアアップ」の取り組みが行われているが（介護福祉士資格制度の厳格化や、キャリアパス作り）、現場の実感通りこれらを主たる課題としてあげる若者は少ない。

よって今行われている施策の中で、給与改善は有効であるが、資格見直しやキャリアパスの効果は弱く、それに代わって労働条件の見直しに正面から取り組まない限り問題は解決できないことが明確になった。

また介護の仕事が自分に合うならと回答する若者も1/3いるので、彼らに介護の仕事が自分に合うかどうか判定させる情報と判断の機会（職場体験など）を与えることも、団体施設として今後重要な活動となってくる。

Q18 あなたは、介護関係の仕事や職場がどのようであれば、介護関係の仕事で働きたいと思えますか。	802	802
仕事内容に対して給料が高ければ働きたい	398	50%
介護の仕事が自分に合うなら働きたい	348	43%
精神的・体力的にきつくなければ働きたい	348	43%
人間関係や職場の雰囲気良ければ働きたい	308	38%
休日がとりやすければ働きたい	279	35%
将来の見通しが立つなら働きたい	197	25%
夜勤が少ないなら働きたい	163	20%
どれにもあてはまらない	156	19%
研修や指導が充分であれば働きたい	151	19%
労働時間が短いなら働きたい	116	14%
キャリアアップがしやすいければ働きたい	95	12%
病気・ケガの心配がなければ働きたい	82	10%
不明	1	0%

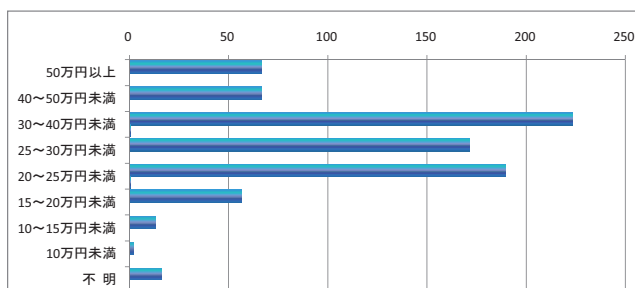
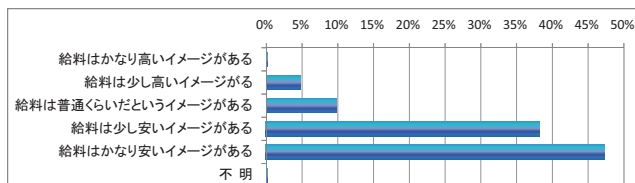


## 6. 給与がいくらなら介護で働いても良いと考えるか

若者の85%が介護の給与は安いと思っている。ただし、それは現在支払われている給与額を実態より安く誤解して安いと言っているのではない。若者が考えているのは、介護と言うどちらかといえば避けたい仕事に見合う額に達していないという意味である。それが、次の質問の給与期待額が平均値31万円という数字で示されている。

これに対し期待する給与額が高過ぎ、そのような人は要らないと切り捨てる考え方もある。しかし人材難の改善には彼らを否定せず、「若者の多くが、この程度は貰わないと介護で働くことが割に合わない」と考えている現実を受け入れる必要がある。すなわち給与改善がここまで出来ないなら、他の課題項目（精神的体力的なきつさの改善、休日の取りやすさ、夜勤が少ない）を制度課題としてとらえて解決し、若者の割が合わない感のハードルを引き下げることが出来れば、「働いてもよい給与額」を引き下げることが出来ると考えられる。

Q19 あなたは、介護の仕事の給料はどのよう にイメージしていますか。 802 802		
給料はかなり高いイメージがある	1	0%
給料は少し高いイメージがある	38	5%
給料は普通くらいだというイメージがある	78	10%
給料は少し安いイメージがある	305	38%
給料はかなり安いイメージがある	379	47%
不明	1	0%
Q20 あなたは、月にだいたい何万円ぐらいの給料をもらえれば、介護の仕事をしたと思いますか。(平均値) 787 787		
平均(万円)	31.0	31.0
50万円以上	66	8%
40～50万円未満	66	8%
30～40万円未満	223	28%
25～30万円未満	171	21%
20～25万円未満	189	24%
15～20万円未満	56	7%
10～15万円未満	13	2%
10万円未満	2	0%
不明	16	2%



## 7. 若者は、将来何のために働きたいと思っているか

1 2項目を設定し、将来自分が働くときの目的としてあてはまるかどうかをたずね、働く目的として回答が多い順に整理した。各項目の％は、「かなりあてはまる」「ややあてはまるの」と回答した者の合計割合を示す。

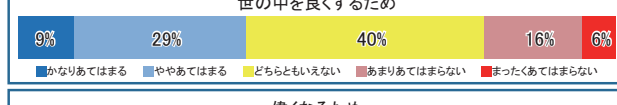
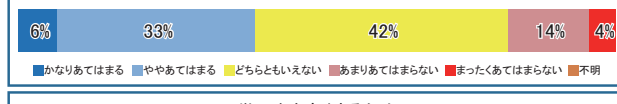
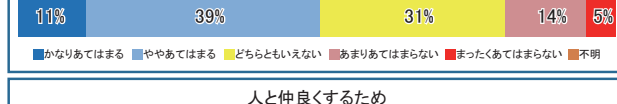
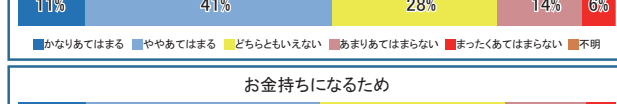
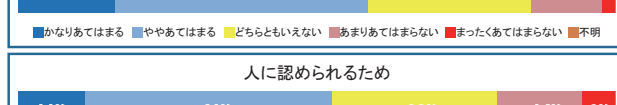
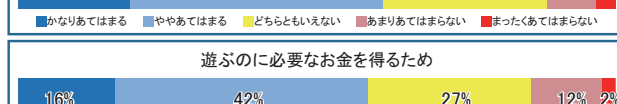
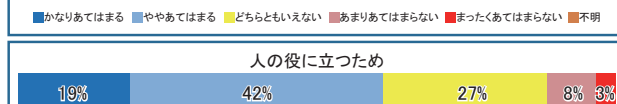
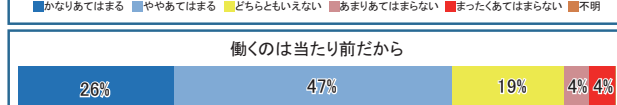
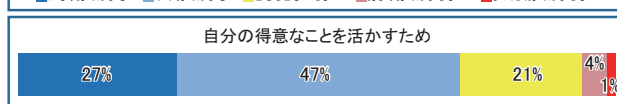
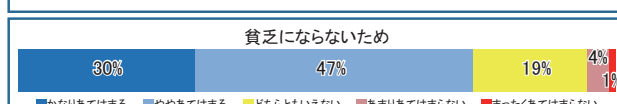
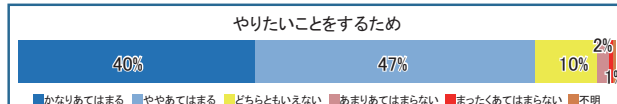
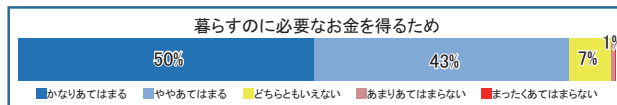
回答結果から一般的な若者が職業に求めることは、

- ◇「暮らすためのお金を得る」「貧乏にならないため」「働くのは当然だから」など、職業にはまず自らの生活を確保する拠り所という期待が強いことが分かった。
- ◇また「やりたいことをやる」「自分の得意なことを生かす」という自己完結型の項目が、「人のために役に立つ」や「世の中をよくする」等の社会貢献型よりも上位に位置づけられた。福祉職なら自己犠牲で人のためという古い価値観だけで、多数の若者を誘導することに無理が出るのが分かる。
- ◇一方で、「人のために役立つため」ということを期待する者も61％を占めており、納得いくレベルの生活が確保されればその先では人の役に立つ仕事に就きたいという希望も、明確に存在していることが確認された。
- ◇さらに影響範囲を広げた「世の中をよくするため」については、支持が1／3近くに落ち、「偉くなるため」については2割以下と、かつての高度成長期男性型の価値観が通用しなくなっていることが分かる。
- ◇多少給与が上がっても責任ある立場につきたがらないということは、福祉に限らずどの産業分野でも近年言われることである。今回の調査結果でもそのことが裏付けられた。

各法人施設におけるリーダー育成やキャリアパス作りにおいても、本人を評価してポジションにつけたが故に退職するなど想定外のことがたびたび起きるが、この点を念頭に指導と人事を行うことが重要であることが分かる。

- (1) 暮らすための必要なお金を得るため 93%
- (2) やりたいことをするため 87%
- (3) 貧乏にならないため 77%
- (4) 自分の得意なことを活かすため 74%
- (5) 働くのは当たり前だから 73%
- (6) 人の役に立つため 61%
- (7) 遊ぶのに必要なお金を得るため 58%
- (8) 人に認められるため 52%
- (9) お金持ちになるため 50%
- (10) 人と仲良くするため 39%
- (11) 世の中を良くするため 38%
- (12) 偉くなるため 16%

項目	802	802
<b>1 暮らすのに必要なお金を得るため</b>		
かなりあてはまる	397	50%
ややあてはまる	342	43%
どちらともいえない	56	7%
あまりあてはまらない	5	1%
まったくあてはまらない	2	0%
<b>2 やりたいことをするため</b>		
かなりあてはまる	317	40%
ややあてはまる	376	47%
どちらともいえない	84	10%
あまりあてはまらない	16	2%
まったくあてはまらない	5	1%
不明	4	0%
<b>3 貧乏にならないため</b>		
かなりあてはまる	237	30%
ややあてはまる	373	47%
どちらともいえない	153	19%
あまりあてはまらない	29	4%
まったくあてはまらない	10	1%
<b>4 自分の得意なことを活かすため</b>		
かなりあてはまる	213	27%
ややあてはまる	379	47%
どちらともいえない	165	21%
あまりあてはまらない	33	4%
まったくあてはまらない	11	1%
不明	1	0%
<b>5 働くのは当たり前だから</b>		
かなりあてはまる	208	26%
ややあてはまる	374	47%
どちらともいえない	150	19%
あまりあてはまらない	33	4%
まったくあてはまらない	36	4%
不明	1	0%
<b>6 人の役に立つため</b>		
かなりあてはまる	149	19%
ややあてはまる	340	42%
どちらともいえない	220	27%
あまりあてはまらない	66	8%
まったくあてはまらない	27	3%
<b>7 遊ぶのに必要なお金を得るため</b>		
かなりあてはまる	130	16%
ややあてはまる	339	42%
どちらともいえない	219	27%
あまりあてはまらない	95	12%
まったくあてはまらない	17	2%
不明	2	0%
<b>8 人に認められるため</b>		
かなりあてはまる	89	11%
ややあてはまる	332	41%
どちらともいえない	221	28%
あまりあてはまらない	114	14%
まったくあてはまらない	45	6%
不明	1	0%
<b>9 お金持ちになるため</b>		
かなりあてはまる	90	11%
ややあてはまる	315	39%
どちらともいえない	247	31%
あまりあてはまらない	110	14%
まったくあてはまらない	39	5%
不明	1	0%
<b>10 人と仲良くするため</b>		
かなりあてはまる	52	6%
ややあてはまる	266	33%
どちらともいえない	339	42%
あまりあてはまらない	109	14%
まったくあてはまらない	35	4%
不明	1	0%
<b>11 世の中を良くするため</b>		
かなりあてはまる	74	9%
ややあてはまる	231	29%
どちらともいえない	320	40%
あまりあてはまらない	131	16%
まったくあてはまらない	46	6%
<b>12 偉くなるため</b>		
かなりあてはまる	18	2%
ややあてはまる	109	14%
どちらともいえない	205	26%
あまりあてはまらない	293	37%
まったくあてはまらない	177	22%



## 8. 若者たちは介護業界に、どのようなマイナスやプラスのイメージを持っているか

若者が介護業界にどのようなイメージを持っているかを、15項目の質問でたずねた。質問は肯定的否定的を織り交ぜて聞いている。

ここでは理解しやすいように職業選択上で肯定的な印象を与えるイメージをA、否定的な印象を与えるイメージをBに置き換え、否定的な印象を持った者が多い項目の順に並べ替えている。

すなわち、ここであげられた上位の否定的印象を与える項目の真の原因を探るとともに、それを改善することが、介護に人を集める対策としてきわめて有効となる。

介護について、否定的な印象を半数以上の若者が持っている項目

(項目横の%は、「Bに近い」と「どちらかというBに近い」と答えた者の和)

1. 人が足りていない	95%
2. 難しい仕事である	91%
3. 地味な仕事である	87%
4. 資格が必要である	86%
5. 重い仕事である	85%
6. 仕事の割に報われない	83%
7. 厳しい	81%
8. 汚い	63%
9. 暗い	54%

一方で次の項目については、過半の者が職業選択として肯定的な印象を持っている

1. 女性が多い	63%
2. 温かい	63%

(介護職員は女性が多い現状で、女性が多い職場は肯定的に評価されると判定した)

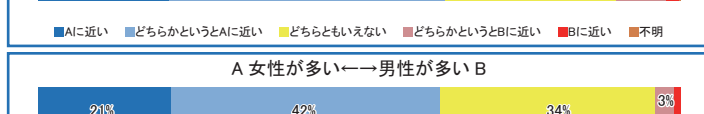
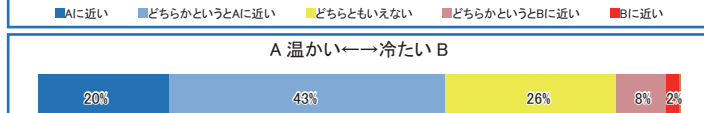
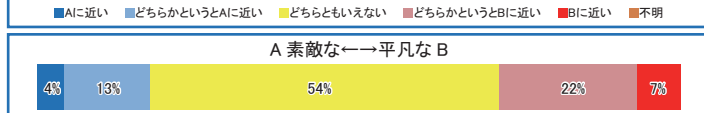
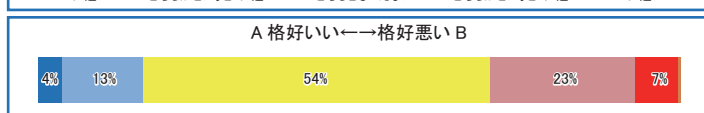
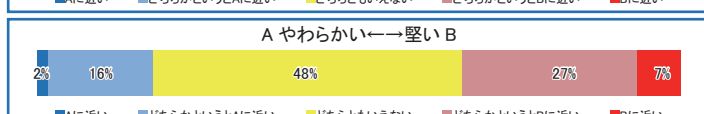
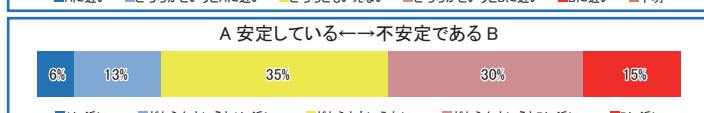
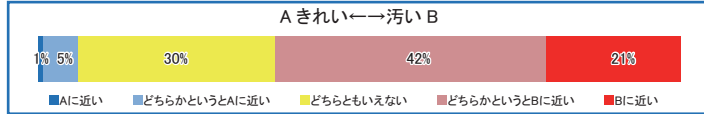
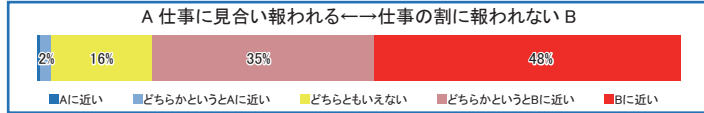
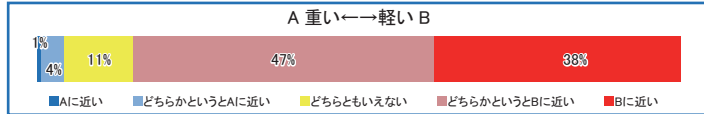
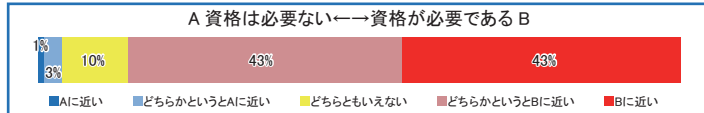
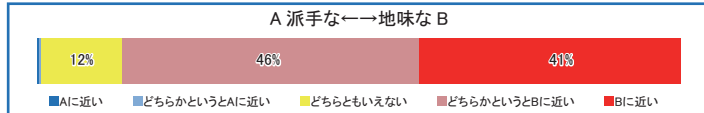
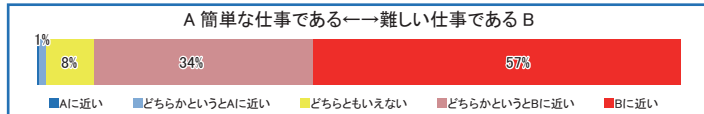
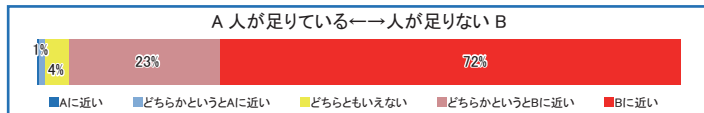
総じて、介護の仕事は職場に人が足りず、仕事は難しく、地味で重く厳しく汚く暗く、仕事の割に報われないと半数以上の若者が見ているという、きわめて厳しい結果が出た。

否定的な印象を持つ者の方が半数を超える項目が15項目のうち9項目、一方で肯定的な印象を待つ者が半分を超える項目は「女性が多い職場」を加えてもわずかに2項目と、職業選択として若者が持つ介護の仕事のマイナス印象はかなり強く、若者にとって勤めたい仕事に好転させることは生半可な取り組みではすまないことが想像される。

また現在は必ずしも資格がなくても勤められるにもかかわらず、資格が必要(就労の障壁が高い)と誤解されている。さらに今後介護福祉士の資格制度改定(受験資格600時間増加)により、ますます資格が取りにくくなったときに、一層若者に敬遠されるリスクもきわめて強く懸念される。



Q11 あなたが感じる「介護業界」のイメージはどのようなものですか。	1 A 人が足りている←→人が足りない B		802	802
	AIに近い		2	0%
	どちらかというAに近い		7	1%
	どちらともいえない		31	4%
	どちらかというBに近い		188	23%
	Bに近い		574	72%
	2 A 簡単な仕事である←→難しい仕事である B		802	802
	AIに近い		2	0%
	どちらかというAに近い		8	1%
	どちらともいえない		61	8%
	どちらかというBに近い		272	34%
	Bに近い		459	57%
	3 A 派手な←→地味な B		802	802
	AIに近い		2	0%
	どちらかというAに近い		3	0%
どちらともいえない		100	12%	
どちらかというBに近い		371	46%	
Bに近い		326	41%	
4 A 資格は必要ない←→資格が必要である B		802	802	
AIに近い		9	1%	
どちらかというAに近い		23	3%	
どちらともいえない		81	10%	
どちらかというBに近い		342	43%	
Bに近い		347	43%	
5 A 軽い←→重い B		802	802	
AIに近い		5	1%	
どちらかというBに近い		29	4%	
どちらともいえない		85	11%	
どちらかというAに近い		376	47%	
Bに近い		307	38%	
6 A 仕事に見合い報われる←→仕事の割に報われない B		802	802	
AIに近い		3	0%	
どちらかというAに近い		14	2%	
どちらともいえない		126	16%	
どちらかというBに近い		278	35%	
Bに近い		381	48%	
7 A 優しい←→厳しい B		802	802	
AIに近い		24	3%	
どちらかというAに近い		48	6%	
どちらともいえない		86	11%	
どちらかというBに近い		293	37%	
Bに近い		351	44%	
8 A きれいな←→汚い B		802	802	
AIに近い		8	1%	
どちらかというAに近い		44	5%	
どちらともいえない		244	30%	
どちらかというBに近い		338	42%	
Bに近い		168	21%	
9 A 明るい←→暗い B		802	802	
AIに近い		20	2%	
どちらかというAに近い		112	14%	
どちらともいえない		234	29%	
どちらかというBに近い		338	42%	
Bに近い		96	12%	
不明		2	0%	
10 A 安定している←→不安定である B		802	802	
AIに近い		46	6%	
どちらかというAに近い		108	13%	
どちらともいえない		284	35%	
どちらかというBに近い		242	30%	
Bに近い		122	15%	
11 A やわらかい←→堅い B		802	802	
AIに近い		13	2%	
どちらかというAに近い		132	16%	
どちらともいえない		385	48%	
どちらかというBに近い		218	27%	
Bに近い		54	7%	
12 A 格好いい←→格好悪い B		802	802	
AIに近い		31	4%	
どちらかというAに近い		101	13%	
どちらともいえない		433	54%	
どちらかというBに近い		181	23%	
Bに近い		54	7%	
不明		2	0%	
13 A 素敵な←→平凡な B		802	802	
AIに近い		35	4%	
どちらかというAに近い		106	13%	
どちらともいえない		435	54%	
どちらかというBに近い		173	22%	
Bに近い		53	7%	
14 A 温かい←→冷たい B		802	802	
AIに近い		164	20%	
どちらかというAに近い		346	43%	
どちらともいえない		211	26%	
どちらかというBに近い		63	8%	
Bに近い		17	2%	
不明		1	0%	
15 A 女性が多い←→男性が多い B		802	802	
AIに近い		168	21%	
どちらかというAに近い		334	42%	
どちらともいえない		269	34%	
どちらかというBに近い		23	3%	
Bに近い		8	1%	



## 9. 若者たちは介護で働くことに、どのようなイメージを持っているか

引き続き、若者たちが「介護関係の業界で働くこと」に対してどのようにイメージを持っているかを15項目たずねた。

前項の質問と同様に、質問は肯定的否定的を織り交ぜて聞いている。ここでは改善課題を見出すために職業選択上で否定的な印象を与えるイメージに質問を書き直し、前問と同様に否定的な印象を持った者が多い項目の順に並べ替えている。

ここであげられた上位の項目が、若者から問われている介護業界が改善すべき項目である。また会員の法人・施設においては、これらの項目について「私たちの法人施設は改善の努力を行っている、他に比べて良い」ということを具体的に示すことが出来れば、相対的に人材獲得で優位になると想定される。

介護関係の業界で働くと言うことについて、否定的な印象を半数以上の若者が持っている項目（項目横の％は、「そう思う」と「どちらかというと思う」と答えた者の和）

- |                          |                           |
|--------------------------|---------------------------|
| 1. 仕事が体力的にきつそうだ 91%      | 4. 夜勤などがある勤務時間が不規則そうだ 82% |
| 2. 給料が満足のいく水準ではなさそうだ 84% | 5. 家庭生活と両立出来なさそうだ 63%     |
| 3. 休みがきちんと取れなさそうだ 84%    | 6. 自分の将来のイメージが描けなさそうだ 48% |

一方で次の項目については、過半の者が肯定的な印象を持っている

- |                           |                        |
|---------------------------|------------------------|
| 1. 仕事を通じて社会に貢献できそう 86%    | 4. 仕事にやりがいがありそう 62%    |
| 2. 自分の仕事が人に感謝されそう 80%     | 5. 一緒に働く仲間と協力し合えそう 61% |
| 3. 資格や専門知識を活かすことができそう 70% |                        |

半分を超える若者は、介護の仕事が社会的に役に立ち、社会に感謝され、資格も活かせる仕事にやりがいがあり、さらに一緒に働く仲間とも協力できると、**我々が伝えたい介護の仕事の魅力をすでに十分理解していることが分かる。**

しかしながら我々が抱えている本質的な問題点は、前項の質問と重ね合わせたとき、そのようなことが十分分かっていながら、それでも介護の仕事を若者が選ばないということである。

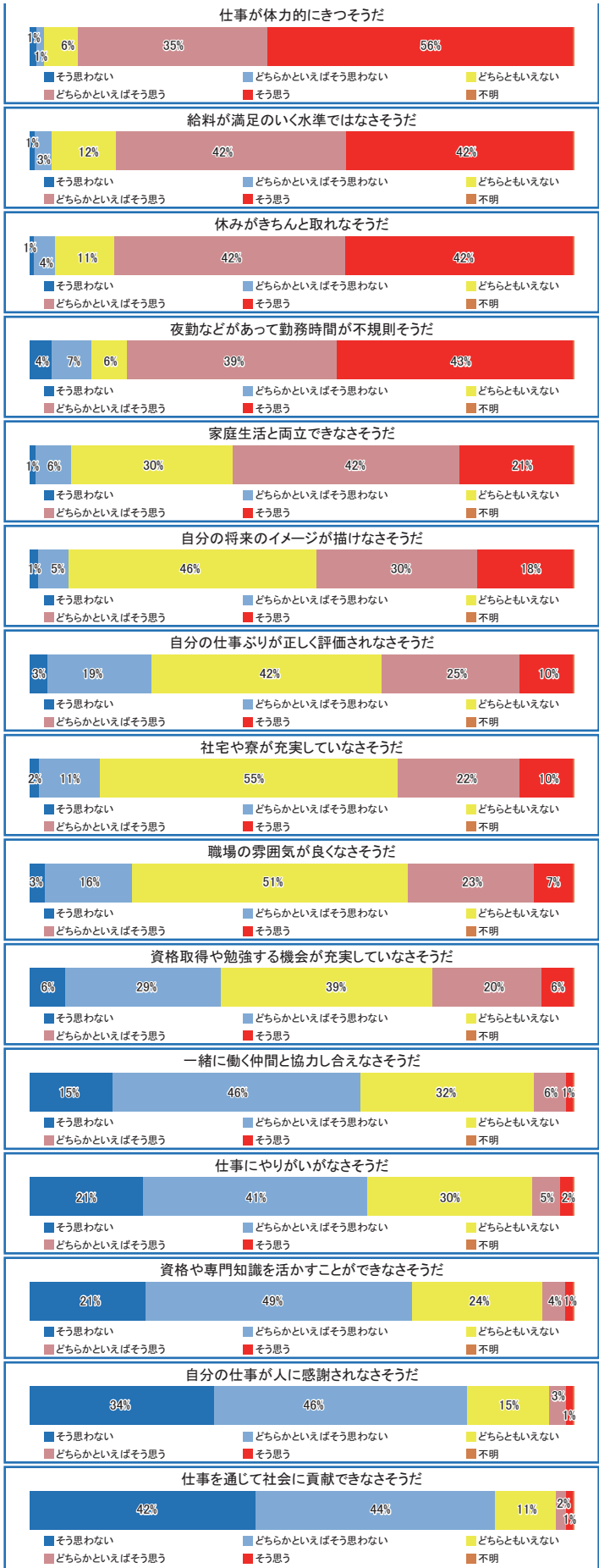
若者たちから敬遠される原因となっている、体力的にきつそう、給与が満足のいく水準ではなさそう、休みがきちんと取れなさそう、夜勤などがある勤務時間が不規則そう、家庭生活と両立出来なさそうなどの「労働条件の課題」に配置人員等の制度まで踏み込んで取り組み改善しない限り、若者は介護就労を敬遠すると考えられる。また一部にある「介護の仕事は良い仕事」が伝わりさえすれば人は集まる」という楽観論では、問題解決につながらないことも分かる。

給与問題については、ようやく光が当たり対策が行われつつあるが、実はそれと同等あるいはそれ以上に、体力的にきつく休みが取れず夜勤などで勤務が不規則で家庭生活と両立出来なさそうという問題が、就労のうえで重要課題であることが今回初めて確認された。

7項「若者は、将来何のために働きたいと思っているか」で判明したとおり、現代の若者が職業に求める者は社会的な価値よりも私生活の確保であることを合わせて考えれば、**労働**

1 仕事が体力的にきつそうだ	802	802
そう思わない	10	1%
どちらかといえばそう思わない	11	1%
どちらともいえない	50	6%
どちらかといえばそう思う	279	35%
そう思う	451	56%
不明	1	0%
2 給料が満足いく水準ではなさそうだ	802	802
そう思わない	7	1%
どちらかといえばそう思わない	26	3%
どちらともいえない	94	12%
どちらかといえばそう思う	339	42%
そう思う	335	42%
不明	1	0%
3 休みがちだと取れなさそうだ	802	802
そう思わない	6	1%
どちらかといえばそう思わない	32	4%
どちらともいえない	87	11%
どちらかといえばそう思う	340	42%
そう思う	336	42%
不明	1	0%
4 夜勤などがあると勤務時間が不規則そうだ	802	802
そう思わない	31	4%
どちらかといえばそう思わない	60	7%
どちらともいえない	52	6%
どちらかといえばそう思う	310	39%
そう思う	347	43%
不明	2	0%
5 家庭生活と両立できなさそうだ	802	802
そう思わない	8	1%
どちらかといえばそう思わない	52	6%
どちらともいえない	240	30%
どちらかといえばそう思う	333	42%
そう思う	168	21%
不明	1	0%
6 自分の将来のイメージが描けなさそうだ	802	802
そう思わない	12	1%
どちらかといえばそう思わない	44	5%
どちらともいえない	367	46%
どちらかといえばそう思う	237	30%
そう思う	141	18%
不明	1	0%
7 自分の仕事ぶりが正しく評価されなさそうだ	802	802
そう思わない	25	3%
どちらかといえばそう思わない	155	19%
どちらともいえない	339	42%
どちらかといえばそう思う	203	25%
そう思う	79	10%
不明	1	0%
8 社宅や寮が充実していないさそうだ	802	802
そう思わない	13	2%
どちらかといえばそう思わない	91	11%
どちらともいえない	438	55%
どちらかといえばそう思う	180	22%
そう思う	79	10%
不明	1	0%
9 職場の雰囲気が悪くなさそうだ	802	802
そう思わない	22	3%
どちらかといえばそう思わない	128	16%
どちらともいえない	407	51%
どちらかといえばそう思う	187	23%
そう思う	57	7%
不明	1	0%
10 資格取得や勉強する機会が充実していないさそうだ	802	802
そう思わない	52	6%
どちらかといえばそう思わない	229	29%
どちらともいえない	312	39%
どちらかといえばそう思う	162	20%
そう思う	46	6%
不明	1	0%
11 一緒に働く仲間と協力し合えなさそうだ	802	802
そう思わない	121	15%
どちらかといえばそう思わない	367	46%
どちらともいえない	255	32%
どちらかといえばそう思う	47	6%
そう思う	11	1%
不明	1	0%
12 仕事にやりがいがないさそうだ	802	802
そう思わない	167	21%
どちらかといえばそう思わない	330	41%
どちらともいえない	244	30%
どちらかといえばそう思う	42	5%
そう思う	17	2%
不明	2	0%
13 資格や専門知識を活かすことができなさそうだ	802	802
そう思わない	170	21%
どちらかといえばそう思わない	394	49%
どちらともいえない	192	24%
どちらかといえばそう思う	33	4%
そう思う	12	1%
不明	1	0%
14 自分の仕事が人に感謝されなさそうだ	802	802
そう思わない	272	34%
どちらかといえばそう思わない	372	46%
どちらともいえない	122	15%
どちらかといえばそう思う	24	3%
そう思う	11	1%
不明	1	0%
15 仕事を通じて社会に貢献できなさそうだ	802	802
そう思わない	333	42%
どちらかといえばそう思わない	354	44%
どちらともいえない	89	11%
どちらかといえばそう思う	14	2%
そう思う	10	1%
不明	2	0%

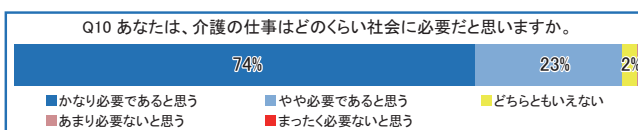
Q17 あなたは介護関係の業界での働き方について、どのようにお考えですか。



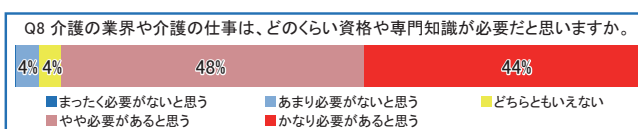
条件の改善に背を向ける限り、介護に必要な人材を量的に確保することは困難であることを再認識する必要がある。

各法人・施設の人材採用に当たって、若者たちがすでに介護は人のためになる良い仕事と認識したうえで給与を含めた労働条件が厳しいことを心配し職業として選択をしないことを、十分認識する必要がある。言い換えれば、「仕事は多少厳しいけれども、人々の役に立つ仕事」という従来の福祉的アピールだけで引きつけようとする、人材募集面では逆効果に成る恐れもある。

Q10 あなたは、介護の仕事はどのくらい社会に必要だと思いますか。	802	802
かなり必要であると思う	590	74%
やや必要であると思う	188	23%
どちらともいえない	20	2%
あまり必要ないと思う	4	0%
まったく必要ないと思う	-	0%



Q8 介護の業界や介護の仕事は、どのくらい資格や専門知識が必要だと思いますか。	802	802
まったく必要がないと思う	2	0%
あまり必要がないと思う	29	4%
どちらともいえない	29	4%
やや必要であると思う	388	48%
かなり必要であると思う	354	44%



## 10. 若者たちは介護に関わる代表的な言葉に対し、どのような印象を持っているか

介護に関わる言葉として「介護」「老人ホーム」「お年寄り」の三つを選び、それぞれのイメージをたずねた。

- |                |           |           |
|----------------|-----------|-----------|
| 1. 「お年寄り」に対して  | 肯定的回答 29% | 否定的回答 24% |
| 2. 「老人ホーム」に対して | 肯定的回答 14% | 否定的回答 47% |
| 3. 「介護」に対して    | 肯定的回答 15% | 否定的回答 49% |

若者にとって、介護・老人ホーム、お年寄りの順で言葉のイメージが悪いことが分かった。我々の努力とは別に一般的に「老人ホーム」という言葉は、若者から否定的なイメージを持たれがちなのが知られている。しかしその、「老人ホーム」という言葉以上に「介護」という言葉のイメージが悪いという結果から、我々の抱えている問題の深刻さが分かる。

一方で、「お年寄り」の言葉に関して、核家族化の中で若者が高齢者になじみがなくなり多くが否定的な印象を持っているのではないかと恐れたが、是非相半ばしたことは救われる要素である。

Q13 あなたは次に挙げる語句にどのようなイメージを抱きますか

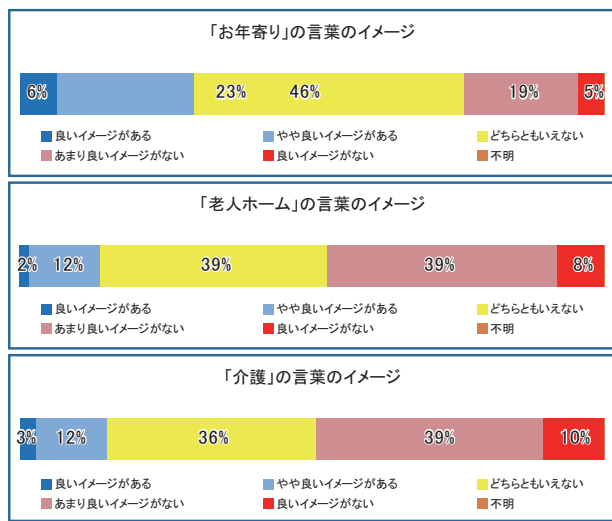
お年寄り	802	802
良いイメージがある	51	6%
やや良いイメージがある	188	23%
どちらともいえない	369	46%
あまり良いイメージがない	156	19%
良いイメージがない	37	5%
不明	1	0%

老人ホーム	802	802
良いイメージがある	13	2%
やや良いイメージがある	97	12%
どちらともいえない	311	39%
あまり良いイメージがない	316	39%
良いイメージがない	64	8%
不明	1	0%

介護	802	802
良いイメージがある	23	3%
やや良いイメージがある	97	12%
どちらともいえない	286	36%
あまり良いイメージがない	311	39%
良いイメージがない	84	10%
不明	1	0%



### 1.1. 若者たちは、介護に関してどの程度の知識と関心を持っているか

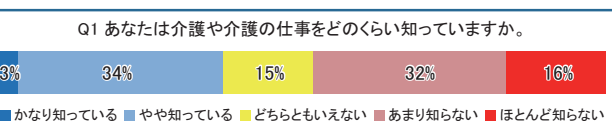
介護の仕事を知っていると回答した者	37%	知らない	48%
介護の仕事に関心があると回答した者	27%	関心がない	56%
学校で勉強したかったと回答した者	33%	したくなかった	42%

以上から、若者の半分程度が介護の仕事を知らず関心もなく勉強したいとも思っていないことがわかる。しかし、逆に3人に1人前後が知っていると答え、関心もあり学校で勉強したかったと回答しているが、すべての仕事が誰にでも好まれるわけでないことを考えれば、これは今回の調査で始めて将来に光がさす数値と言える。

我々の活動の成否は、この3割からさらに絞り込まれてその1/6（全体からは5%）しか最終的に職業として選びたいと思ってくれない現状の、何をどう改善するかにかかっている。

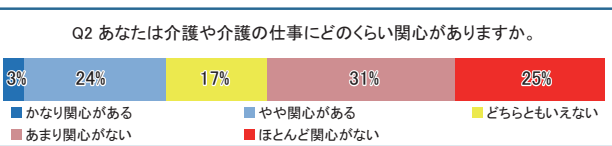
Q1 あなたは介護や介護の仕事をどのくらい知っていますか。

	802	802
かなり知っている	25	3%
やや知っている	271	34%
どちらともいえない	120	15%
あまり知らない	255	32%
ほとんど知らない	131	16%



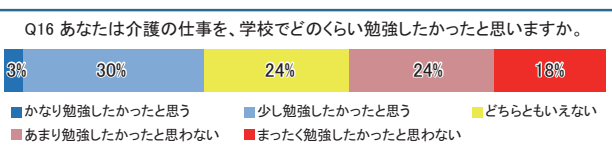
Q2 あなたは介護や介護の仕事にどのくらい関心がありますか。

	802	802
かなり関心がある	27	3%
やや関心がある	190	24%
どちらともいえない	134	17%
あまり関心がない	252	31%
ほとんど関心がない	199	25%



Q16 あなたは介護の仕事、学校でどのくらい勉強したかったと思いますか。

	802	802
かなり勉強したかったと思う	26	3%
少し勉強したかったと思う	241	30%
どちらともいえない	194	24%
あまり勉強したかったと思わない	193	24%
まったく勉強したかったと思わない	148	18%

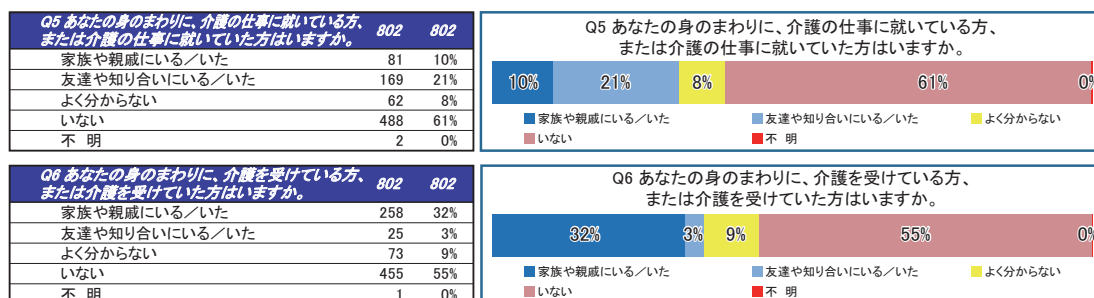


## 12. どのような情報から介護に関するイメージを定めているか

周辺に介護の仕事をしている人がいる者 31% いない者 61%

周辺に介護を受けている人がいる者 35% いない者 55%

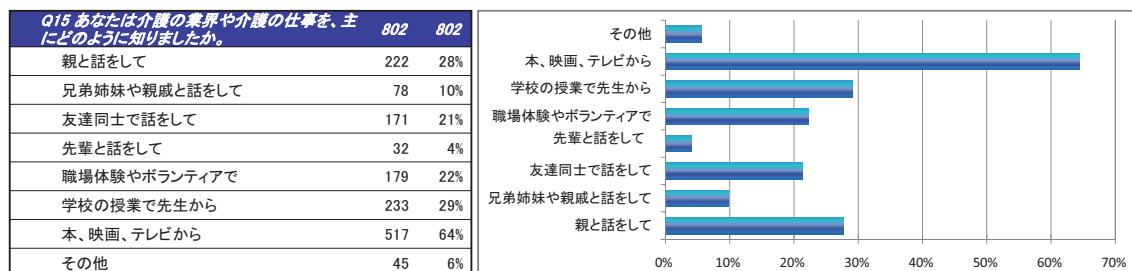
身の回りに介護従事者や介護を受けている人がいる割合は、周辺にいない者に比べて今は少ないが、将来的には要介護高齢者の増加に伴い両方の数値が伸び、結果として若者に介護の仕事がもっと身近なものになることが期待される。



介護の仕事についての情報源は、本・映画・テレビなどのメディア情報が2/3を占める。これらについては事実の一部を大げさに強調する要素が強く、そもそも介護の仕事が社会にどう思われているかを反映する色彩が強い。

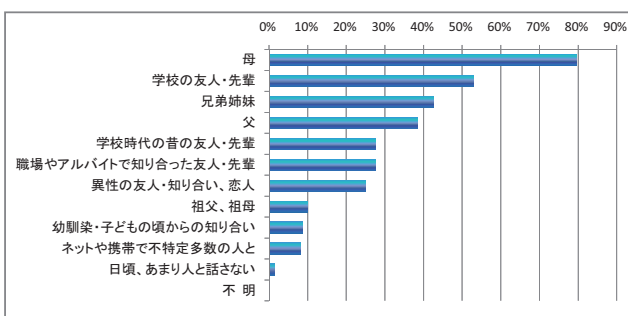
一方、先生や親がそれぞれ4人に1人の割合であり、これらの人々に対する働きかけが大切で、近年言われるような「本人が介護に進みたくても、親や先生が反対する」という現象はなんとか防ぐ必要がある。また親のうちでも日頃話をする相手を見ると、母親が父親の3倍で、母親がかなりの影響力を持っている可能性がある。

今後の活動では、当事者である若者だけでなく、親とりわけ母親への啓蒙活動が重要であると考えられる。また人材採用活動でも、親や家族も含めた就職説明会や施設見学会の実施が有効な対策と想定される。



介護に関する職場体験やインターンシップ、ボランティアなどの経験がある者が25%、その時期は中学生時代がもっとも多い。大学生や高校生の時期に経験を持つ者は合わせて経験ありのうちの半数である。小中学生時代の啓蒙活動はもちろん大切だが、**職業選択時期ともぶつかる高校大学時期に介護現場に触れる経験を持った者は、経験あり25%のさらに半分である全体の12.5%しかいない。この割合を高める努力もきわめて有効な施策だと考えられる。**

Q25 日ごろの生活でよく話をする人は誰ですか。	802	802
母	638	80%
学校の友人・先輩	424	53%
兄弟姉妹	340	42%
父	307	38%
学校時代の昔の友人・先輩	221	28%
職場やアルバイトで知り合った友人・先輩	220	27%
異性の友人・知り合い、恋人	201	25%
祖父、祖母	80	10%
幼馴染・子どもの頃からの知り合い	68	8%
ネットや携帯で不特定多数の人と	64	8%
日頃、あまり人と話さない	11	1%
不明	1	0%



Q21 あなたは介護に関連する職場体験、インターンシップ、ボランティアなどの経験がありますか。	802	802
ある	197	25%
ない	594	74%
不明	11	1%

Q21.1 あなたは介護に関連する職場体験、インターンシップ、ボランティアなどをいつ経験しましたか。	197	197
大学生の頃	49	25%
高校生の頃	49	25%
中学生の頃	71	36%
小学生の頃	42	21%
その他	8	4%

Q21.2 あなたは介護に関連する職場体験、インターンシップ、ボランティアなどをどこで経験しましたか。	197	197
ボランティアで	90	46%
職場体験学習で	85	43%
インターンシップで	3	2%
その他	30	15%

Q21.3 あなたは介護に関連する職場体験、インターンシップ、ボランティアなどでどんな経験をしましたか。	197	197
お年寄りの話し相手	138	70%
お年寄りの介護	47	24%
掃除	43	22%
その他	24	12%

